

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.6 2009 1/1

その時、中之島が動いた。

五代友厚



五代友厚さん 実業家 大阪証券取引所発起人



大阪を東洋一の
商工業都市に！

大河ドラマ『篤姫』が人気を博しましたが、五代さんも薩摩の二出身をぞうでうむ。14歳の時に世界地図を模写して

島津公に献上したのが認められたか、藩命で長崎海軍伝習所に遊学し、欧州視察にも行きもうした。密航で上海へ渡った

こともある。広い世界を見た経験が、のちの新政府での仕事や、大阪で興した事業のヒントになった。じゃっどん、酒は泡盛、肴は薩摩揚げに限るが。

大阪へは維新後に政府高官として着任されたんですよ。

外交や貿易を取り締まる役職でな、ずいぶん外国商人たちとやりおうた。ま、ちいと厳しすぎたか、外国領事から、おいの排斥運動が起ったこともあるがの。大川沿いに造幣寮（造幣局）を誘致したんも、大阪税関の初代税関長を務めたんも、おいじゃ。大久保（利通）さんとの縁で、北浜で開かれた新政府の重要な会議「大阪会議」に関わったこともある。ま、その頃には、宮仕えは性に合わんと悟って退官しとりもしたが。

高官の座を捨てて、実業界に転身されたのは？

おいには夢があった。大阪をマンチエスターとリパブルを合わせたような、

東洋一の商工業都市にするというな。最初に始めた商売は、質の悪い貨幣を地金にして造幣寮へ納める「金銀分析所」じゃ。今の時代ならベンチャー言いよつとか？まあ、それがよう儲かった。そのうち鉱山事業に成功して「鉱山王」と呼ばれたり、活版所や紡績所、通商や為替の会社、堂島には製藍工場も作った。忙しか毎日じやったが、芸者遊びは欠かしもほん。松島に遊郭を作ったんも、実はおいよ。

——そして、五代さんの「その時」です。

明治11年（1878）8月15日に大阪株式取引所（のちの大阪証券取引所）を設立されましたね。

堂島にあった米会所がルーツになりました。鴻池や三井、住友といった豪商連中から、発起人に担がれたの。同じ年に、事業者を組織して大阪商法会議所（のちの大阪商工会議所）も作った。カネは自分一人が儲けるだけはいかん。この大阪を、いや日本国をどげんするか、それを常に考えんとな。

——ごたい・ともつ

1835〜1885。薩摩藩士として欧州視察に派遣され海外事情に精通。維新後は官職を経て、紡績業、鉱業、鉄道業など幅広く起業し、大阪経済発展に貢献した「大阪の恩人」。

4大偉人アポなしインタビュー！

その時、

私は動いた。

大阪の歴史の交差点、中之島を歩けば様々な銅像に行き当たる。

エライ人なのは分かるけど、実はいったい何をした人？

というわけで、月刊島民が架空インタビューを敢行。

さまざまな史料、エピソードを参考に、

少しばかり想像も交えて銅像本人に語ってもらった、

あなたが動いた「その時」とは…。みなさん教えてください！

取材／若狭健作 松本創（共に本誌）

※おこわり…このインタビューはあくまで架空のものであり、口調などは史料に基づいた想像です。読者の皆様もあれこれ思いを馳せながらお楽しみください。

——いま世界は金融不況の真っ只中で、岩本さんは株の世界を熟知されていたと思いますが。

父が「株式界の聖人」と呼ばれたほどの相場師でしたからなあ。私はその家督を継ぎ、29歳で株の世界に入ったんです。いえ、ずっと順風満帆やったわけやありません。日露戦争後の暴落相場では儲けましたけど、明治40年（1907）の大暴落では全財産を投じて市場を買い支えました。儲けも大事ですが、それ以上に大事なのは信義。そして義侠心や思いやります。

んが利用できるものがええやろうと。——しかし、相場で大損失を被り、「その時」を迎えてしまいます。自決されたのは大正5年（1916）10月22日…。自分は株に向いてへん、と一時は半ば引退しとりました。しかし、信頼していた銀行の倒産などで損失が膨らみ、復帰したんです。が、結局は逆に追い詰められて…。寄付した金を回収したら？という人もあつたけど、そんな義理に反することできません。公会堂の完成を見られなかったのは無念極まりますが…。妻へは「株式投機は自分一代限りとする」と遺言しました。盛りりの秋を待たずに散りゆく紅葉の気分でしたなあ。

渡米実業団に加わり、NYを視察した時、富豪が公共のために私財を投じているのを見て、大いに感激しました。大阪市に100万円の寄付を決めたんです。桜並木や育成基金も考えましたが、市民み

いわもと…えいのすけ
1877〜1916。「義侠の相場師」「北浜の風雲児」と呼ばれた。現在の価値で80億円ともいわれる額を投じて大阪市に中央公会堂を寄贈。しかし、完成する前に拳銃自殺した。

儲けよりも大事なものは
義侠心や思います。

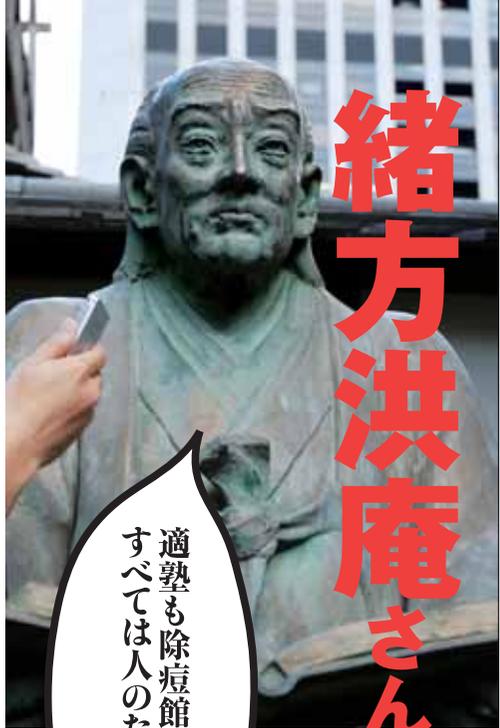


岩本栄之助さん 株式仲買人 中央公会堂寄贈者

丸暗記 中之島が「その年」動いた！

16 広くしていく、淀屋常安

1619年●淀屋常安（P）が中之島の開発を行う。



緒方洪庵さん 蘭学者 医師

適塾も除痘館も
すべては人のためじゃ。

大阪は人材流出に悩んでいます、先生の「適々齋塾（適塾）」は、明治維新期の俊才を多く育てましたね。

たそうで…。

さよ、歴代の塾生は600人を超す。村田蔵六（のちの大村益次郎）に大島圭介…。いまや紙幣になつとるらしい福沢諭吉は、よう酒を飲んで悪さをしていた。腸チフスにかかり、中之島の藩屋敷でふせつとるのを治療に通つたこともあるわ。しかしまあ、弟子たちは一人一畳の大部屋生活で、よう勉学に励んでおつた。1冊だけあつた辞書「ゾーフ・ハルマ」を奪ひ合つてな。青雲の志というかな、わしも大阪の「思々齋塾」で蘭学を修めたのだが、当時はそんな熱気が町に溢れていたんじや。

種痘の普及にも尽力された先生の「その時」は嘉永2年（1849）11月。「除痘館」設立の年ですが、「苦勞も多かつたんじや。

おがた・こうあん 1810～1863。大阪や長崎で蘭学を学び、医学と私塾を開く。「当代一の蘭方医」とうたわれ、後に幕府の農医師兼西洋医学所頭取を務めた。

大阪市助役、市長として華々しいビックプロジェクトを手掛けられました、前職は大学教授とかか。そう、もとは学者でね。東京高等商学校（のちの一橋大学）で社会政策や都市問題の研究をしていたところ、お声がかつたんだ。当時の大阪は第一次世界大戦の影響で、産業が急速に発展して人口が急増し、衛生問題やスラム問題が深刻だったんだ。『研究成果を執行したい』、その一心で大阪市の助役を引き受けたのだよ。まあ、学生からはずいぶん引き止められたがね。

の中心にしようと躍起になつたもんだ。さて、市長の「その時」はやはり御堂筋の起工式、昭和元年（1926）10月7日ですが…。44メートル幅の大街路建設は、ほんとうに苦勞した。「街の真ん中に飛行場でも作る気か」なんて市民から突き上げられたり、用地の買収でも揉めたけれど、当時人口日本一の都市の顔として、恥ずかしくない最高級の道路を作りたいのだったよ。結局37年の竣工を拝むことはできなかつたけれどね。一度で良いから「島民」の読者のように、見事に色づいたイチョウ並木の中を歩いてみたかったなあ。

せき・はじめ 1873～1935。地域の拡大や地下鉄、大阪港建設などを手掛け、数多くの論文を発表。「学者市長」と称された氏の研究は、その後の都市計画に大きな影響を与えた。

開さん 第7代 大阪市長

大阪の
名に恥じぬ
最高級の道路が
必要なんだよ。



添乗員 天璋院 篤子 中之島案内。

大河ドラマヒット記念!



案内される人／田中 幸さん 阪神高速道路株式会社社長。「定年後は中之島の活性化をライフワークにするつもりです」。

今も記憶にあたりしい大河ドラマ『篤姫』の大ヒット。主役である天璋院篤子の地元である鹿児島には観光客が増えているらしい。とはいえ、『篤姫』にかかわる歴史スポットは何も鹿児島や東京ばかりではない。ここ中之島にもたくさんあったのだ。というわけで、天璋院ならぬ添乗員篤子が『篤姫』ゆかりのスポットを巡るツアーを企画。頼りないガイドに案内される役をお引き受け下さったのは阪神高速道路の田中幸会長。中之島にお住まいで、かつマンションの理事長も務め、中之島の活性化に尽力されているという現代のシマの名士。実際、歴史にもお詳しく、むしろ篤子の方が教わることの多いツアーだったのです。

③大阪会議のレリーフ

この5人、誰が誰だかお分かりになりますか？『篤姫』に出ていた人もいますね。ここには明治8年に行われた大阪会議の出席者が描かれています。維新が行われた後もなお、藩ごとの利害による対立が続いていました。そこをうまくまとめようといわれたのがこの会合。舞台はすぐ隣の料亭【花外楼】だったんです。

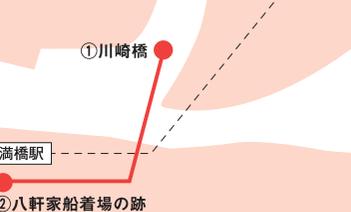
上が左から大久保利通、木戸孝允、板垣退助。下は伊藤博文と、その右が井上馨かな…（正解でした）。これができたというのは新聞で読んだよ。【花外楼】という店の名前は、会議の成功を祝して木戸孝允が名付けたんだってね。



①大坂城を見据える川崎橋

まずはこちら、大坂城でございます。「嫁ぎ先」である徳川家と、故郷・薩摩藩との対立が深まっていく中、篤姫は徳川慶喜を陰に日向に助けます。その慶喜が倒幕軍を迎え撃つべく陣取つたのが大坂城。大坂の玄関口であった天保山沖には最新式の軍艦を配備していたそうなんです…。結局、慶喜は小舟に乗って戦場に姿を見せることなく逃げてしまいました。

大坂城を眺めるのにはここからが一番良いんだ。しかし慶喜は逃げたというけれど、トップの人間の判断としてはあながち間違いでなかつたかもしれないね。降伏したおかげで落とさずに済んだ命もあったわけだから。



②八軒家船着場の跡

去年、八軒家の船着場が整備されましたが、昔はこちらが船着場だったんですのよ。つまり、慶喜が逃げていったのもこのあたりから。その石碑が【永田屋昆布店】の店先にあるのです。しかもこちらのお店、「八軒家の今昔」という冊子まで作って配ってられるのです。

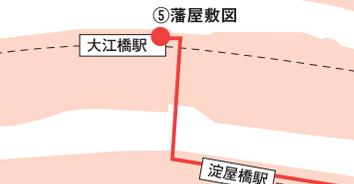
へえ、昔はここが船着場だったんだね。それにしても、こんなに詳しいガイドを配るなんて、良いことをなさってますねえ。



⑤京阪電車大江橋駅地下1階

田中様、最後はこちら新しくできた駅の中です。ここに中之島に建ち並んでいた藩屋敷の地図があるのです。中之島線の線路などが重ね合わされていて分かりやすいでしょう。篤姫の故郷である薩摩藩の屋敷跡は、今の京町堀にあったのですわね。

これは面白いね。我が家はこのあたりかな。こういうものを見ると藩屋敷が建ち並んでいた頃の中之島を歩いてみたくなるね。



④天五に平五 十兵衛横丁

幕末、ここ今橋1丁目には両替商が並んでおりました。中でも天王寺屋五兵衛と平野屋五兵衛の両名はたいそう羽振りが良く、名前を文字で「十兵衛横丁」と呼ばれてたんです。実はこの両名が、薩長軍に対して資金を融通していたんです。でも、そういう「大名貸し」は明治維新で多くがチャラに。皮肉にも、両方とも没落してしまつたのです。

こういう石碑があつたとは。確かに「大名貸し」の件もあって、明治維新の後、大阪の経済は一時期低迷してしまつた感があるね。





木村重成、大坂の魂を家康に見せつける。

【木村長門守重成表忠碑】

きむらながとのかみしげなり

豊臣秀吉公亡き後、遺子秀頼公に刃を向けたのがタヌキ親爺徳川家康。難癖をつけ、五十万とも言われる大軍で攻めてきた。いわゆる「大坂の陣」。大坂方の軍師は「存じ真田幸村。その他豪傑も多きいたが、なんと言っても忠義無類の「若木桜」と謳われたのが当時21才の木村長門守重成。冬の陣で一番の激戦が「鳴野・今福の戦い」。この時、重成は初陣であったが、群がる敵を蹴散らし、堂々と帰城し、評判はグッと上がった。そして、一旦和睦。徳川家康の許へ誓詞血判を取りに行く大役に任せられたのが重成。ニセの血判を見破り、家康を大喝。家康は冷や汗を流した。

年が明け、いよいよ夏の陣。老獪な家康は大坂城の全ての堀を埋めてしまった。大坂方は城から出て戦わねばならない。死は必定である。そんな中、重成も一方の大将としての出陣が決まる。が、数日の間、ほとんど食事をとらぬ。新婚の妻が「死が恐ろしいからでしょうか」と問うと、ニコリ笑い、「イヤ、敵に首を

石碑でめぐるシマの名場面。

シマを歩いているとよく出くわす石碑の数々。大きさにかかわらず、石碑があるところには物語あり。本誌連載でもおなじみ旭堂南海さんに、珠玉の「シマノネタ」三選を聞かせていただく。

上方講師・旭堂南海のシマノネタ 特別編

【淀屋の碑】

戦国時代末期、秀吉に選ばれて土佐堀川南岸、大川町に居を構えたのが淀屋。初代当主が常安。天下が徳川に移った後も、開発は町人の手に委ねられ、一番に働いたのが淀屋常安であった。どうすれば大坂が活性化するか。今は江戸が中心。大坂での商いはデメリットが多すぎる。常安は必死に考えた。大川町のすぐ北には土佐堀川。その向こうは中之島。当時は葎の茂る中洲に過ぎなかった。しかし、水運利用を念頭に置くと、中洲は逆にもってこいの地。よし、中之島を開発しよう。常安は、中之島開発に着手した。案の定、地方の大名の蔵屋敷ができ、米が積まれ、

自然と市が開かれるようになった。それも、淀屋の店先で。常安は、中之島からも来やすいようにと土佐堀川に橋を架けた。これが、淀屋橋と呼ばれるようになったのである。以降、淀屋は繁栄を続け、五代目・辰五郎の時には、諸大名に数多の金子を貸すほどにまでなっていた。しかし、その時、中之島は動いた！突然、幕府が淀屋に關所を命じたのである。時に宝永2年（1705）5月16日。今、淀屋の往事を偲ぶものはこの石碑と淀屋橋しかない。しかし、まぎれもなく、中之島の礎を築いたのは淀屋であると言えよう。心して渡れよ淀屋橋。

【堂島米市場跡記念碑】

大坂が天下一の米の集積地になったのは淀屋の功績であるのは間違いない。しかし、天下は江戸。江戸にすべてを集約したいと幕府は思っていたであろうが、現実とは違った。大坂商人の先見の明である。水運を利用し、中之島を開発し、武力では天下を奪われたが、経済では天下を奪取したのである。

元禄頃になると、中之島や堂島浜に100近くも大名の蔵屋敷が建ち並ぶに至る。蔵屋敷の白壁が整然と区画された日本一きれいな町並だったに違いない。毎日が門前市を成す様相で、そこに集う人たちの闊達な商いの声は、日本を背負う張りとも負があったらう。でも、当時の市は土佐堀川南岸、淀屋の前であった。地の利を考えると、より蔵の多い場所へと変わるのが合理的であろう。堂島浜に米会所が開設されたのは元禄10年（1697）のことだった。しかし、米会所はあくまで私設市で幕府の認可は下りていない。が、時代は幕府のメンツ以上に進んでいた。大坂を無視することはできなかったのだ。その時、中之島は動いた！とうとう、幕府は認可をすることになったのである。時に享保15年（1730）のことであった。実質、大坂が日本の中心になったのである。



大坂を日本の中心にした堂島米会所

きょくどう・なんかい
1964年、兵庫県加古川市生まれ。大阪大学卒業前（1989年）に三代目旭堂南陵に弟子入り。この「花賞」授賞。得意ネタに「太閤記」「難波戦記」「浪花侠客伝」「天満宮霊験記」など。



淀屋常安、葎茂る中之島を拓く。

シンボル波瀾万丈伝。

時代の要請にあわせ、常に「開発」という名の発展を遂げてきた中之島。それだけに、現在、シンボルと呼ばれる建物のある場所は、さながら歴史の動きが積み重なった「地層」とであると言えそうだ。

監修／蒲田建三さん

大手前高校→大阪大→関西電力と、人生の大半が中之島と縁が深く定年された後に独自でまとめた『中之島』今昔(いまとむかし)は、中之島の変遷が事細かに記された一級資料。このページも蒲田氏の研究成果によるところが大きい。

<p>シンボル</p> <p>これぞ中之島！の筆頭シンボル。</p> <p>大阪市中央公会堂</p>	<p>美しい曲線でワーカーを魅了。</p> <p>朝日ビル・朝日新聞ビル</p>	<p>永遠なれスクラッチ タイルの客船。</p> <p>ダイビル</p>	<p>やはり名門！ シマの最高学府。</p> <p>大阪大学 中之島センター</p>	<p>大阪を代表する 迎賓館と言え。ば。</p> <p>リーガロイヤル ホテル</p>
中之島1丁目	中之島3丁目	中之島3丁目	中之島4丁目	中之島5丁目
備中・成羽藩 陸前・仙台藩 石見・浜田藩	伊予・大洲藩 伊予・宇和島藩	因幡・鳥取藩	安芸・広島藩 筑後・久留米藩 美濃・大垣藩	常安町・小倉屋仁兵衛町
明治以降の主な建築物の推移	赤レンガが眩しい公会堂が現在の姿になったのは大正7年(1918)。それまでは、現在、大阪城内にある豊国神社があり、その後木造2階建ての建物が「市立公会堂」が建てられた。その旧公会堂、新築を機に天王寺公園に移築されたが、昭和11年の天王寺動物園拡張工事に伴い、その姿を消した。ちなみに、すぐ目の前の東洋陶磁美術館の場所に、「大阪ホテル」や「大阪銀行集会所」といった施設があったことはあまり知られていない。	中之島西部がかつて倉庫街だった歴史を、その土地の物語として持つのがダイビルだ。明治時代、ここは「安田倉庫」→「浪華倉庫」の敷地だった。大正7年、大阪商船が土地を買取り、本社ビル建設を計画するも変更。宇治川電気・日本電力の3社共同出資による会社・大阪ビルディングを設立し、7年後、ダイビルが竣工した。豪華客船に例えられて愛され、昭和21年(1946)からしばらくは関西経済連合会の事務局も置かれていた。	阪大の中之島におけるルーツは古く、明治13年(1880)設立の「府立大阪医学校」にある。改称時代には製紙・砂糖会社や住友倉庫、三菱倉庫であった。東側の製紙・砂糖会社跡の工事は昭和38年に始まり、2年後に「大阪ロイヤルホテル」が開業。名を変えて現在に到っている。また西側にあった三菱倉庫跡も、昭和35年には「大阪国際貿易センタービル」が竣工。その後、「2000年サミット」の大阪誘致を目指し、黒川紀章設計による大阪国際会議場が開場した。	中之島界隈が「住友村」として知られた昭和40年、その中核企業である住友金属工業の名物社長、日向方斉が世間を賑わせた。通産省との大ケンカ、世に言う「住金事件」である。当時、新高知建設で急成長していた住金だったが、不況の折、通産省は粗鋼の減産を決めた。日向は通産大臣・三木武夫に直談判し、「輸出については別枠だ」と言質を取る。だが、通産官廳は嫌がらせのように通告してきた。「指本に従わなければ、原料となる炭の割り当てを減らす」と。背景には、住金の成長を阻みたい業界大手の圧力もあった。「大臣が承知したことを一官僚が覆すとは何とことか!」。日向は激怒し、全面戦争に突入。週刊誌は「泣く子も黙る通産省とケンカ」と書き立て、関西財界や世論は日向を後押しした。最終的には住金側がホコを取める形となったが、反骨心あふれる直言の人、日向は「ケンカ方齊」の異名で今も語り継がれている。
60	70	65	80	55
比較的移り変わりの少ないエリアと言える。京阪電車中之島線のターミナルとなり、さらなる発展が望まれる。ちなみに、誘致を目指した2000年サミットは、残念ながら沖縄での開催となった。	一つまた一つと学部が移転し、その歴史が一旦はついでたものの、大学関係施設が再び誕生。起伏に富んでいる東側に予定されている「大阪市立近代美術館(仮称)」の早期着工が待たれる。	鳥取藩の藩屋敷→倉庫街→今も昔もスター級の愛されビルへと華麗なる転身。とはいえ、来夏には取り壊しが決定。新たな人生(?)の幕開けを迎えるが、何らかの形での保存も期待したい。	豪華な藩屋敷からジャーナリズムの拠点へ。高級旅館から大阪ガス、そして最先端のビルへ……と、ガラリとその姿が変わる。現在は道路を挟んで向かいの新朝日ビルを含めたタワービル構想が進む。	さすがは近代大阪の開幕を告げる建物だけあり、永久保存の決議も。赤レンガ建物建設のきっかけ(寄付)を与えた相場師・岩本栄之助(P3)の生涯の方が波乱と悲哀に満ちている。

File.1 シマの大姐御、伝説のTATO。

明治の頃、中之島にあったホテル自由亭を根城にした女賊がいた。名を「雷お新」という。土佐藩に生まれたお新は、並外れた美貌の持ち主だったが、18歳で大阪に出て来てから悪事の限りを尽くす。その美貌で旅人を誘い、枕元の金品を盗む、スリや万引きはする、贖金は作る、さらに恐喝や強盗までエスカレート。20歳の頃には「大姐御」と呼ばれるまでになっていた。

そのお新、全身に下派手な刺青があった。背中や弁財天、腕に金太郎や桜吹雪、太ももに大蛇退治の図、尻には雲と龍……。極彩色のもう肌でスゴまれ、金を巻き上げられた被害者の中には、あの伊藤博文もいたそぞうだ。

お新は41歳で他界したが、あまりに見事なその刺青は、中之島にあった大阪医学校(現・阪大医学部)で標本にされ、博覧会にも出品された。大正時代には、数奇な人生が映画化されている。また、阪大医学部出身の手塚治虫は「ブラック・ジャック」で、やくざの大親分が死んで刺青を残すというエピソードを描いているが、これもお新の伝説がヒントになったのかもしれない。

中之島事件ファイル。

歴史教科書には
載ってない

教科書や年表に載っていないけども、
教員が読んだ古本の事件は数多い。
シマを騒がせた古今の事件といえは、
大阪地検のある「中之島」といえは、
いまも「事件」の象徴なのだ。

「事件はシマで起きてんだ!」
あの名ゼリフに倣って言おう。

文/松本創(本誌)

File.2 ケンカ方斉、官僚に「喝!」。

中之島界隈が「住友村」として知られた昭和40年、その中核企業である住友金属工業の名物社長、日向方斉が世間を賑わせた。通産省との大ケンカ、世に言う「住金事件」である。

当時、新高知建設で急成長していた住金だったが、不況の折、通産省は粗鋼の減産を決めた。日向は通産大臣・三木武夫に直談判し、「輸出については別枠だ」と言質を取る。だが、通産官廳は嫌がらせのように通告してきた。「指本に従わ

File.3 楠公さんの息子のエエ話。

時は南北朝時代。舞台は、当時、天神橋と難波橋の間にあったという渡辺橋。反鎌倉幕府の急先鋒だった楠木正成が幕府軍を攻め、橋から川へ、多くの将兵を追い落とした武勇伝があるが、その息子の正行も、やはりこの橋に逸話を残している。

合戦の相手は、山名時氏らを大将とする室町幕府軍。正行はこれを撃破し、父



参考文献
File.1,3:『大阪の歴史』71号(大阪市史編纂所)
File.2:『あの大坂は死んだのか』(産経新聞社)皆川豪志

分野別 歴史のタウンページ。

「もっと知りたい」「この目で見たい!」というアナタに、中之島のことをもっと詳しく知ることができる「見る」「聴く」「歩く」をお送りしましょう。

取材文/溝口さやか(本誌)

お金の歴史が一目で分かる。造幣博物館

和同開珎や皇朝十二銭の古銭や貿易銭など、教科書でしか見たことのない貨幣コレクションがズラリと並び造幣局構内の【造幣博物館】。そのなかで、ひととき光る東京オリンピックのメダルは造幣局で作られたものだ。主力選手以外にも存在感を発揮するのはエルビスプレスリーのカラーコイン(もちろん流通可)と、遊びゴコロも満載。※春頃までは展示内容が一部変更、臨時休館の場合あり。



〒06-6351-8509
9:00AM~4:45PM
(入館~4:00PM)
土・日・祝日休

日本の建築・土木の近代化に触れる。大林組歴史館

「社員だけでなく、誰でも気軽に楽しめるように」と作られただけあって、大林組だけでなく、日本の建築・土木の近代化の変遷をたどることができる歴史館になっている。パネル展示のほか、大正3年に竣工した東京駅の赤レンガ、大阪城天守閣の銅製瓦などの実物展示もあり、中学生が社会見学で来ることも。館内から眺める土佐堀川の景色のいまむかしを比べてみるのも面白い。事前予約をすれば、解説案内もしてもらえる。



〒06-6946-4575
10:00AM~6:30PM
土・日・祝休(不定休あり)

「メイドイン大阪」がいっぱい。大阪名品喫茶 大大阪

壁に飾られた大正時代の写真や絵。棚には近代建築や『ダイビル七十五年史』などの建築、歴史好きにはたまらない貴重な資料も。店内は内装から食器までコーディネートされ、コーヒーを飲みながら書籍を自由に閲覧できる。サクラクレパスやキャンパスノートなど、大阪生まれの名品コーナーも。



〒06-6444-8870
9:30AM~6:00PM
日・祝休

金融の舞台を知るなら…。大阪証券取引所 展示コーナー

ビル4階の片隅にそとある展示コーナー。上場会社の名前が描かれた掛札や株券のほか、取り引きの一時中断を知らせる笛や、会場内で使用されていた電話やレシーバーなどのレアモノもあり、こっそり試したくなる(が決して試してはいけません!)。小さいスペースながらも歴史を感じる一角だ。



〒06-4706-0800
10:00AM~5:30PM
土・日・祝休

街の移り変わりを調べよう。中之島図書館 大阪資料・古典籍室

中之島図書館3階にある大阪資料・古典籍室には、古地図や資料だけでなく、雑誌やガイドブックも充実している。ガイドブックと言ってもここで見られるのは何と明治・大正期のもの(1)。1月7日まで開催の「ガイドブックに見る大阪 水都中之島のいまむかし」展では、そんな諸先輩方に囲まれて「月刊 島民」も仲間入りしている。資料は1月9日以降、閲覧可能。



〒06-6203-0473
9:00AM~8:00PM
(土曜~5:00PM)
日・第2木曜・特別整理期間(不定期)休

シマの名士の生涯が詰まる。岩本栄之助記念室

インタビューにも快く答えてくれた岩本氏(P3)の銅像に迎えられ、まるで書齋にお邪魔したような雰囲気【岩本栄之助記念室】は中央公会堂の地階にある。ここには中央公会堂創建当初の漆喰の壁が埋め込まれていたり、竣工記念誌が展示されていたりと見所も揃っているが、それ以外にも氏の実家である岩本商店の法被や、若かりし日の写真や手紙などの青春メモリーも詰まっている。



〒06-6208-2002
9:30AM~9:30PM
第4火曜(祝日の場合は翌日)休

偉人の足跡をたどるなら…。除痘館記念資料室

「緒方洪庵→適塾」だけではもったいない。適塾からひと筋南へ入った緒方ビルの4階には、洪庵が天然痘撲滅のために汗を流した除痘館の記念資料室が開放されている。大阪や神戸で天然痘が流行した当時は、「予防接種を受けると牛になる」とトンで戸で天然痘が流行した当時は、「予防接種を受けると牛になる」とトンでもない噂も。そんな逸話を教える錦絵もある。



〒06-6231-3257
10:00AM~4:00PM(土曜~12:00AM) 日・祝休

「なにわの味」のルーツを知る。食のライブラリー

だしや市場の歴史など「なにわの食文化」を知ることができ、味の素グループ大阪ビル2階の【食のライブラリー】。『蕎麦雅誌』なるレアな月刊誌や、大正、昭和期の商品パッケージを見ているだけでも時間がすぎてしまう。登録手数料100円で貸し出しも可。司書も常駐しており、調べ物に最適。



〒06-6449-5842
10:00AM~5:00PM
土・日・祝休

解説を聴きながら散策を。大阪まちあるき

マンツーマンでまち歩きガイドをしてほしい! という人におススメなのが、サイトから音声ガイドをダウンロードし、i Podで聞きながら自分のペースで歩ける【大阪まちあるき】。「レトロ浪漫中之島タイムトラベルコース」の案内人はあの浜村淳さん(1)となんとも賢沢。他にも上方落語の舞台を歩くコースなど全4コース。
<http://www.osaka-info.jp/machiaruki/>
からダウンロード



講座と「ええ噺」が一度に! 新なにわ塾

「水の都おおさか ~八軒家浜、川口港から大阪港への軌跡~」と題して、大正・昭和期の港や川、橋の果たした役割などを学ぶ講座。とは言い、堅苦しいお話をばかりではなく、本誌でも大活躍の旭堂南海さんの講談が毎回聴くことができる! と一度で二度おいしい講座だ。申込みは往復はがきorHPより(1月8日)。〒540-8570 府民お問合わせセンター「新なにわ塾」係 <http://www.3.shinsei.pref.osaka.jp/ers/index.do>
〒06-6910-8001 (9:00AM~6:00PM、土・日・祝休)
受講料(全5回)3,000円 定員150名(多数の場合は抽選)
第1回 大阪の橋と都市の発展
第2回 物見遊海 観光都市大阪
第3回 中之島、土佐堀川、堂島川一舟運と鉄道の盛衰記一
第4回 川口港とその周辺一川口外人居留地と文化一
第5回 戦前期の大阪港一風水害と内港化計画一

歩くべきは名所だけにあらず。大阪まち遊学

「自分の街を旅人の目線で見ると、ふだん何気なく見過ごしていた施設や建物を探ったり、地元の人しか知らないこぼれ話を検証する『もうひとつの旅クラブ』。メンバーが案内役となり、名所や観光スポットめぐりとまたまた違う街の歩き方を教えてくれる。毎年4~11月に開催され、今年は天満・天神界隈のコースも。参加費1,000円 定員10名
<http://www.tabiclub.org/>



街の「言い伝え」を歩いて体感。朝日カルチャー

全3回に渡る「大阪の路地を歩く」の、新年、第1回目は「中之島線開通と大阪の情報発信の今昔を探る」(1月20日)。歴史書などには書かれていない、街の言い伝えを、街歩きコーディネーターに教えてもらいながら歩く。定員になり次第締め切りの人気講座なので、申し込みはお早めに!
〒06-6222-5222 参加費(全3回)8,820円(施設入場料が別途必要な場合あり) 定員30名

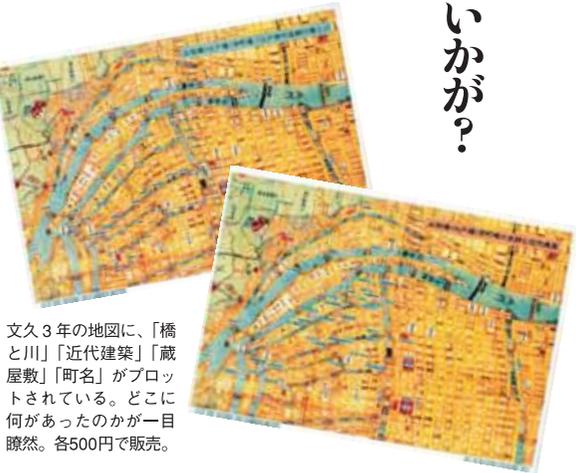
少しばかり先ですが…。リバーウォーク

今年の夏から秋にかけて行われる水都大阪2009。その期間中は川床や朝市、イベントやワークショップが川辺で随時開催され、誰でも参加できる。夜はナイトプログラムとして中之島公園、八軒家浜エリアは橋のライトアップなどもあり、お祭りムードで昼と夜、どちらの川辺を歩いても楽しめる。
〒06-7506-9460 <http://www.suito-osaka2009.jp/>

歴史散策のお供に オリジナル古地図はいかが?!

取材文/大迫力(本誌)

土佐堀通のすく南にて。今や珍しい「写植」の看板を見つけて驚いていると、窓の張り紙には「古地図あります」。これは一体…。産みの親は小山田宗弘さん。写植屋さんと同じ場所、創業社という地域に根ざした印刷物を手がける印刷会社をされている。地図の誕生も、この場所への愛着がきっかけだった。「02年に『土佐・江戸・京町堀 町ぐるみプロジェクト』というHPを作ったんです。それを見てくれた人から『大阪古地図集成』と



文久3年の地図に、「橋と川」「近代建築」「蔵屋敷」「町名」がプロットされている。どこに何があったのか一目瞭然。各500円で販売。

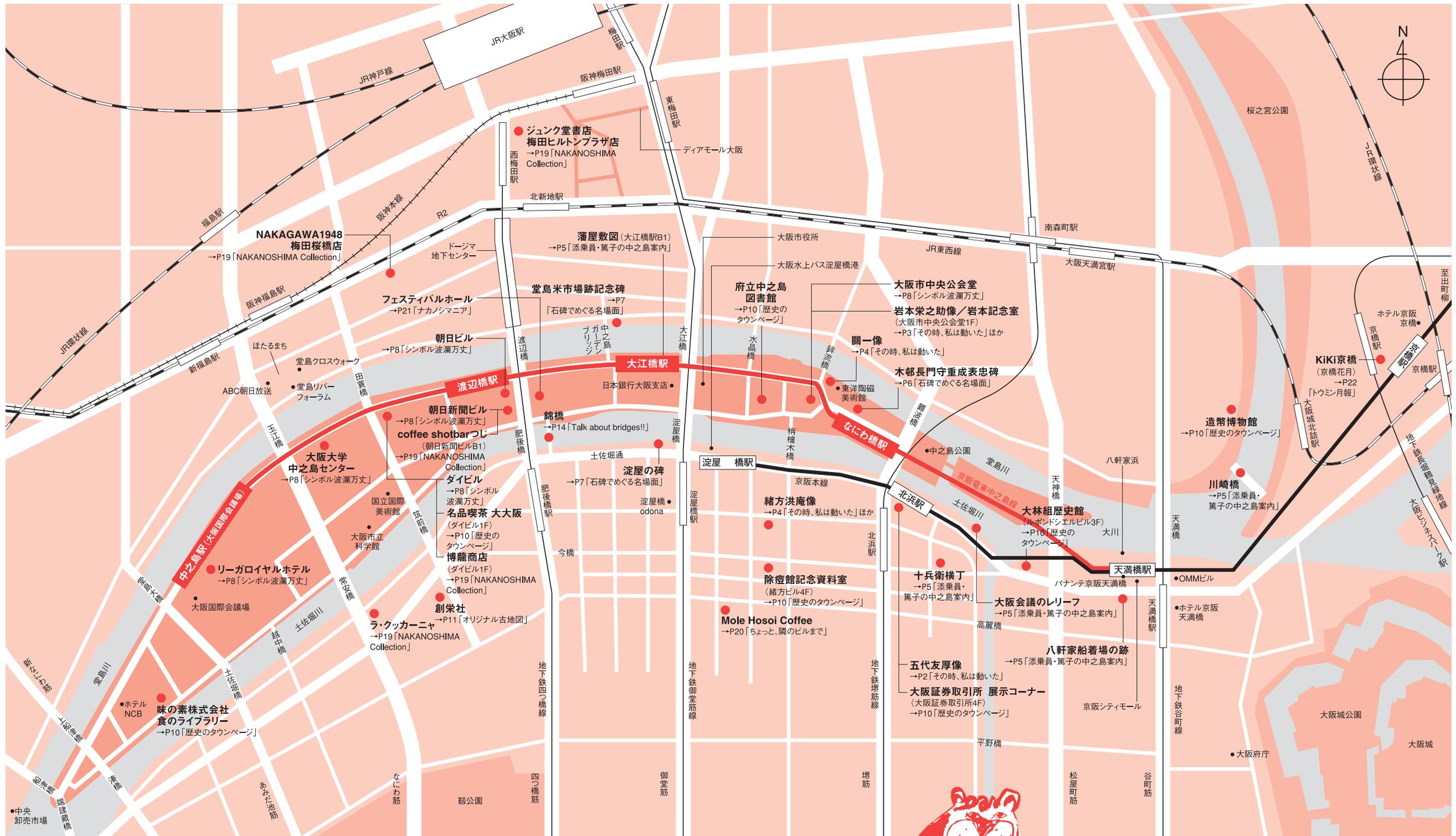
この夏から半年ほどだが、張り紙を見て買って行く人も増えてきているという。「会社を始めて20年、土佐堀」



小山田さんは「水都大阪2009」事業の「土佐堀・江戸堀・京町堀地域・エリアコーディネーター」でもある。〒06-6441-7871

いうセットを紹介されて、そこにあった文久3年版の地図がとっても気に入ったんです。蔵屋敷や橋の名前が細かく書き込まれた地図を見るうち、「どこにどんなものがあつたのか」への興味を募らせた小山田さんは、ついに07年、地図の翻刻の許可を得て、昨年の夏からオリジナル古地図の販売にこぎ着けた。発売から半年ほどだが、張り紙を見て買って行く人も増えてきているという。「会社を始めて20年、土佐堀」

古地図を使ったユニークな地域紹介をしたい



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です!

平塚桂(以下、桂) 水晶橋と同じように、元は可動堰として使われていた橋です。むかしは土佐堀川可動堰と呼ばれていましたが、1985年の改装を機に、錦橋という名前になりました。

たかぎみ江(以下、み江) しかしオシャレな橋ですね。

桂 センスがいい人の勝負コーディネート的なオシャレっぽさがありますね。川から欄干までスツと立ち上がる縦のラインが、横に長い橋の姿をシャープに引き締めています。さらにトップのボツボツと水平に連続する丸窓をアクセントとし、視線をトップに集中させるという効果も計算してそうですね。

み江 中之島の橋は岸と水面の高さの差が少ないのでどうしても短足さんになりがちですが、うまく体型をカバーする正攻法のコーディネートですね。

桂 欄干の丸窓のほか、階段横の壁にも窓のような四角い穴もあり、こうした窓が川の風景を絶妙に切り取ります。

み江 窓からの見え方に意味を持たせるとは、ずいぶん建築っぽいですね。

桂 正解！ 京都工芸繊維大学の笠原一人助教によると、大阪市土木部の設計とされる錦橋ですが、意匠担当は伊藤正文という建築家とのこと。

み江 伊藤正文って誰？

桂 辰野片岡建築事務所で働いたあと、大阪市技師をつとめ、戦後は大阪市立大学などで教鞭を執った建築家です。

み江 つまり錦橋は大阪市技師時代の仕事ということか。

桂 その傍らで日本インターナショナル建築会というグループに参加して、機関誌『インターナショナル建築』に寄稿したり、その表紙をデザインしたりしていました。

み江 すいぶん活動的な方ですね。しかしインターナショナル建築会、と聞いて納得。橋のフォルムも、インターナショナルスタイルを思わせる幾何学的で抽象的なものです。

桂 なんと錦橋は1981年生まれで、インターナショナルスタイルの記念碑「パルセロナ・パヴィリオン」とは2つ違い。当時最新の国際的な建築トレンドに、ほぼタイムラグなしで追いついている、ということですね。

み江 Oh！ インターナショナル。桂 周囲にも、ステキな建物がそろっています。たとえば橋のたもとにはフェスティバルホールが、そしてその西には朝日新聞ビルがあります。まずフェスティバルホールはクリーム色のタイルの壁に信楽焼の牧神が踊る1958年築のビル。

み江 これは錦橋の橋上からの眺めがベストポジションですね。

桂 朝日新聞ビルは1968年完成で、バルコニーが張り出した水平のストラップ模様が印象的です。このストラップは北隣に控える朝日ビルの外観とそ

ろえたもの。こちらは錦橋と同じ年で、やはり幾何学的な、昭和初期としては最新のモードをまとっています。

み江 フェスティバルホールも朝日新聞ビルも朝日ビルも、再開発による建て替えが予定されていますね。

桂 そうなんです！ 土佐堀川沿いの

Talk about bridges!!
橋の話をしよう⑥

錦橋

文/ぼむ企画
絵/網本武雄(本誌)

曲面を水平に走るバルコニーが印象的な朝日新聞ビル。イラストでは見えないが、北隣には朝日ビルがある。

階段横の壁には四角い窓がうがたれており、川の風景を意識させている。仕上げを替えた壁を細かく切り替えて、橋の姿にリズムを与えている。

フェスティバルホールのレリーフは、ギリシャ神話に登場する音楽好きの牧神パンが音楽を楽しんでいる様子を表現したもの。

リズムカルに並ぶ丸窓がアクセント。トップの細い縁取りや、橋面から立ち上がる壁の水平のラインが橋の姿を引き締めている。

躯体を欄干の高さまで立ち上げ、縦のスリットでスタイル良く見せている。少し束柱をベルボトムパンツのように末広がりにして、さらにスタイルアップ。

桁下には水晶橋と同じく、川をせき止めるためのテンターゲートが収納されている。

にしほし 錦橋
1931年完成のコンクリートアーチ橋。可動堰としてつくられ、桁下には上下に開閉するゲートを収納している。階段や欄干を一体化した、シンプルかつ細やかなデザインが魅力。1985年に改装され、本体の補修と橋面の整備が行われた。全長55.12m。

風景には欠かせない役者たちが、そろって変わってしまうのは惜しいですね。

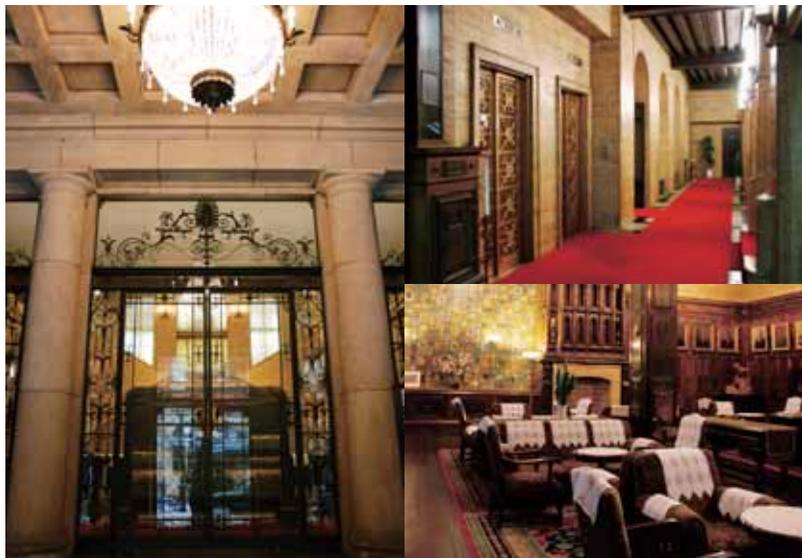
み江 残る錦橋には、これからもがんばってもらいたいものです。

ぼむきかく たかぎみ江平塚桂の2人による建築ライターのユニット。カーサ・ブルタス、ほかの雑誌にも執筆。けんちく家対決、けんちく雑談ガイドなどと独断と偏見に満ちた「メンマ」の溢れるHPも必見。

- 1 水晶橋 可動堰として1929年に完成。大阪市中央公会堂の北西の、堂島川沿いに掛かっている。現在は歩行者専用橋として活用されている。第3号参照。
- 2 伊藤正文 いとう・まさふみ 1896年生まれ。1917年早稲田大学卒業。1924年から39年まで大阪市に奉職し建設課長までつとめた。1960年死去。
- 3 日本インターナショナル建築会 本野精吉や上野伊三郎らにより関西で発足。機能主義による新時代の建築を目指しつつ、地域性も考慮した。1933年にブルーノ・タウトを日本に招待。
- 4 インターナショナルスタイル 工業化時代にふさわしいスタイルを、と考案され、1920年代から50年代ころまで、世界共通の様式として流行。装飾をおさえたシンプルな構成が特徴。
- 5 パルセロナ・パヴィリオン 1929年完成。設計は20世紀建築の3大巨匠のひとつ、ミース・ファン・デル・ロイエ。壁と柱などによる直線的な構成から、光と影が踊る建築美を表現。

Will you join us?
中之島に「入会」しませんか?

取材・文／石原 卓(本誌)



満州事変調査団のリットン卿一行も訪れたという、英国風の意匠をあしらった談話室(右下)。普段はほとんど使用されていないが、他にもフランス風の会議室など多数存在する。

number. 0005

日本綿業倶楽部

東洋のマンチェスター時代、ここにあり。

威風堂々たる大正時代の風格そのものを、今の世に伝える品格ある建物が船場にある。日本綿業倶楽部が入る綿業会館がそれである。昭和6年竣工で設計は当時の建築界のカリスマである渡辺節。当時渡辺門下であった村野藤吾氏がヘッドドラフトマンという立場で綿業会館の設計を担当した。

当時、東洋紡績専務であった岡常夫の「日本綿業の進歩発展をはかる…」という遺言によってなされた寄付金と、業界企業の寄付金によって設立された。東洋のマンチェスター」といわれた大正時代の豪華な逸話である。その後、戦渦をくぐり抜け、一時は進駐軍に接収されるが、戦後に倶楽部としての活動を再会。現在は会員約600名という老舗社交倶楽部に発展した。

様々な国の人に受け入れられるようにと設計された各部屋のインテリアは、その意匠が部屋ごとにすべて異なり、英国風、仏蘭西風など、細心の思想で創られた建物であることがわかる。今では本館部分が国の重要文化財として認定され、大阪の誇る貴重な建築遺産となった。今も月に2度の茶話会が催され、囲碁・将棋・ゴルフ・謡曲・俳句などの同好会も盛況。重要文化財の中で寛げる…それだけでも会員特権と言えるだろう。

◎入会資格

会員1名の推薦を受け、理事会で承認された者に入会資格が与えられる。原則として会員以外は入館できないので注意。ただし倶楽部主催による一般見学会なども定期的に行われているので問い合わせいただきたい。

☎06-6231-4881



三休橋筋に面した会館は「商店街の人たちにも大切にされているから維持できるんです」と総務部長の品川さん(左)と、事務局長の花崎さん。建物正面のガス灯を少し多めに設置してもらえたことから、愛されぶりがうかがえる。

ふりがな	かわち	ひでお	ふりがな	が	か
氏名	河内英男さん			職業	画家
経歴	昭和13年 大阪市中央区本町で生まれる 昭和30年 高校生の頃から中之島の風景を描き始める 昭和31年 初作品の中央公会堂の絵が国展に入選し、展示会場で買い手がつく 昭和33年 大阪市立美術館の研究生をしながら本格的に絵の勉強を始める 昭和46年 佐伯祐三に憧れ、パリに留学。以来、パリへは毎年行くように 平成18年 中之島の風景が中心の画集『大阪風景』を上梓				



「50年間、ずっと中之島を描いてきたんよ」とは、なんと半世紀にわたりこの街を描き続けてきた河内英男画伯である。で、



画伯。なぜ中之島なんですか? 「高校の卒業式が中央公会堂だった」「川が今よりも身近で、中之島によく来てた」「初めて入選した絵が、公会堂を描いたものだった」など、いくつか挙げていただいたが、要は「中之島は『絵になる』から描くねん」というお言葉に大いに納得。そりゃそうですね。

いざ、公会堂を描く。画伯は椅子やイーゼルを使わず、地べたに座って黙々とスケッチするスタイルを貫く。天候は曇りがいいらしい。水彩画の彩色はアトリエに戻ってから仕上げるそうだ。素人の絵描きさんから、どんな絵の具や筆がいいのかと聞かれると、「道具は二の次。枚数をこなすべし」ときっぱり。「素人は絵を売ることなんか考えず、描く行為そのも

ギャンブルで
100万負けたら、
不思議と次の日に
100万の絵が売れる。
(河内)



今日は本気の
「アーティスト魂」を、
聞かせて
いただきました!
(中谷)

のを楽しめばいい。だって、売れたらワシらの仕事なくなるやん」と

舌を出す。これまで値が付いた画伯の絵画は相当な金額になるそうだが、「ぜんぶギャンブルと旅で使いましたわ〜」。



河内さんは30代の頃にパリで暮らし、セーヌ川やシテ島も数多く描いた。「水のある街が好きなんやね。ベネチアもいっ



ぱい描きました」。その上で、中之島を描きつづける理由は? 「執念かな。高速道路や背の高いビルなど『絵にならん』ものが、ずいぶんと中之島に増えてきた。でも、それもこれも含めて風景として絵に遺したい」。中之島と大阪への深い愛情とともに、画家としてのプライドが感じられる言葉である。

最後の質問です。画伯にとって中之島とはどんな存在ですか? 「うーん、親子やな。縁が切れへん。もちろん、あつちが親やで」。こんなにもチャーミングな画伯の専属モデルとして描きつづけられてきた中之島よ。あんたは幸せ者だぜ〜。

河内さんの作品は銚子橋北詰の[江戸前鰻料理 志津可]に飾られているほか、今春、[ナルミヤ或橋画廊](中央区道頓堀)にて個展を開催予定。パリと中之島で描きためた川辺の作品を対比させる。画伯いわく、「パリのセーヌ川あたりと中之島はよう似てるけど、並べると川と人との距離感が違うのがわかる」のだから。個展の問い合わせは[ナルミヤ或橋画廊]まで。☎06-6211-7692



なかにたに・のぼる 建築家。住宅リノベーション集団「アートアンドクラフト」代表。「NPO水辺のまち再生プロジェクト」の発起人でもあり、暮らしにも観光にもっと川を利用しようと呼びかける、自らも「グッドリバー」な熱血漢。

今月のテーマ **【エプロン】**

中之島と言えば背広が圧倒的与党。しかし、その陰にエプロンあり。島民を時に助け、時に癒すエプロンに、一同最敬礼を！
取材・文/青木雅幸 溝口さやか 大迫力(共に本誌)

「目惚れして同じの10枚買ったんよ」



めいばいれ!

博龍商店 津田和子さん(70)

20年前、近所の商店街で見つけて一目惚れ。黒のレースは珍しいうえ、値段も破格の1,800円だったのでまとめ買いたの。好きが高じて、昔はワンピースをエプロンにリメイクしてたんですよ。もう洋服の一部やねえ。

お洋服も髪型も華やかでいらっしやるので、黒のレースで正解ですね。白だと負けてしまいますから。ご商売はダイビルの売店ですか。タバコを1カートン買ったらいターをおまけで付けてくれそうなおサービス精神を感じます。コンビニの素っ気なさは大違いやなあ。



審査員/大平秀峰さん [NAKAGAWA1948 梅田桜橋店] 店長
老舗らしい風格と肩の力が抜けるフレンドリーさを兼ね備えたテーラーにて、絶妙な採寸テクニックを誇る「ゴッドハンド」として知られる。[NAKAGAWA] と言えば淀屋橋WESTにも店舗があり、島民にもおなじみ。☎06-6348-5200

coffee shotbar つじ 豊田眞理子さん(43)

自分で買う時はデザイン重視で、ブランドは「シビラ」と決めてます。いつも洋服やアクセサリともコーディネートしますね。たまにお客様からいただくこともあって、もう何枚あるか数えきれないくらいです。

赤のラインがキレイでお洒落です。ウエストがしまっで見えますので、立ち姿が美しくなるんです。お店に立たれた時に、カウンターの水平ラインと見事なクロスを描くのでしょうか。「エプロン界の天海祐希」ですなあ。



「地に足の着いた雰囲気です」

ラ・クッカーニヤ 今木宏彰さん(39) 藤井宏樹さん(25) 嶋野和男さん(27)

基本的には黒とか茶色。カウンターなどで、汚れが目立たないように。お洒落より、武骨でも地に足の着いた感じにしたいので、スタッフは男子ばかりです。そうそう実は僕、目の前にあった扇町高校の出身なんです。(今木シェフ)

シェフはサロンで若手はエプロンですね。年齢・技能・風格がなければサロンは巻けないやと暗示しているようですね。若手二人のエプロンのくたびれ具合が「チューボーですよ!」の「未来の巨匠」を思わせます。頑張り!



「仕事モードになる気合の入るユニフォーム」

昔からエプロンをつけていますが、半年前にモデルチェンジして、生地が強くなって丈夫になりました。使い勝手のいい大きなポケットがお気に入りです。うちの店では、中に着るのは白シャツにスラックスと決まっています。

ゴールドのステッチが高級感を漂わせています。ポリエステルが65%入っているので、柔らかくシワが寄りにくく、品のある印象になっているのですね。デザインは似ていてもホームセンターのゴワゴワ感はありませんよ。

●質問その二
恋愛において、自分が好きではない人に、好きになってもらったりすると、ちよつと面倒だったりしますよね。とはいえ人間関係の中ではよくある話だし、なるべく誠意をもって接しているつもりです。ただ、それでもやつぱり、気が重い。そして、そんな風に面倒に思ってしまう自分に嫌気がさしたりしてしまふことも…。
なにか良いアドバイスはいただけませんか? (女・26歳・メーカー営業)

●質問その一
「頑張り」とか「大変やね」とか、誰かをねぎらったり応援する言葉を使う時、ちよつとためらってしまいます。
「頑張り」なんて人に言えるほど、自分はそのことをしつかりやれているのか? 「大変」などと簡単に共感できるほど、自分はその人の状況を理解できているのか? そこまで気にする必要はないかとも思うのですが、仏教では、人をねぎらう時に、意識することなどはあるのでしょうか? (男・28歳・雑誌編集)

●解答
近年、「人に『頑張り』と言うのはよくない」との説をしばしば耳にします。「言われた側の心身の状態によっては、それがとてもプレッシャーになってしまふ」みたいですね。
でも「質問はそういったことじゃなくて、『頑張り』などと簡単に口にしてよいのか。それは傲慢じゃないか」という視点のようです。なかなか面白い方向からボールを投げられた気分です。
実は「頑張り」は仏教用語の「我を張る」が語源だと言われています。つまり、仏教では望ましくない状態を指すのです。仏教では、「我を張る」のは苦悩を生み出すと説きますから。

●解答
相手を慈しみ、相手の悲しみを我が悲しみとする、それを「慈悲」と言います。仏教の実践目標のひとつです。でも、それは男女の恋愛とは同位相ではありません。ですから、「好きでもない人に好かれて面倒に思ふ」ことであなただけ自己嫌悪に陥る必要はないでしょう。
そもそも人間関係というのは面倒なものなんです。なぜなら、至極当たり前ですが、相手は自分の思い通りにならないからです(自分さえ思い通りならいいのです)。それは面倒なものの発生源となります。そこで、もともと「思い」の方を強くしないようにトレーニングします。面倒なものを減少させるためです。



道説法

まずは「思い」を整え、ベースを崩さずに「私には恋愛感情はない」という態度を相手に示し続けます(メタ・メッセージ)。察してもらえない場合は言葉(メッセージ)で伝える。その際、「その二」にもあったように、言葉を選んで伝えます。チェックポイントは次の処方箋をご覧ください。
●仏教用語の処方箋
「言葉(行為)」「言葉(内面)」と合わせて「言葉」と言います。「言葉を使う行為」そのものを指します。「その言葉は、いつ、誰に使うべきか」「事実かどうか」「慈しみの言葉か、憎しみ言葉か」「柔和な言葉か、乱暴な言葉か」などをチェックしながら言葉を使うことが大切です。

さて、ご質問の「ねぎらう時の意識」ですが、仏教では相手を思いやっつてねぎらうの言葉かけは「無財の布施(金品以外の施し)」と考えます。自分の都合を強くないために実践する修行なのです。ただ、仏教は「言葉」を慎重に使うことを重視しますので、「今」「この人」に言うべき言葉かなどのチェックをお忘れなく。
●仏教用語の処方箋
「善哉(よきかな)」
仏さまが相手を褒める場面で出てくる言葉です。通常は「善哉善哉 善きかな、すばらしい」と繰り返して語られます。相手をねぎらうときに使ってみませんか? 「お、善哉、善哉」って。



ちよと、隣のビルまで。

取材・文/松本 創(本誌)

第6回

【Mole Hosoi Coffee】@芝川ビル

地下金庫室で宝のような極上コーヒーを。

土佐堀川の端に建つ銀行の地下金庫から、はぐれ者たちが金塊を盗み出す、高村薫の『黄金を抱いて翔べ』というハードボイルドな小説があるが、そこから少し南東へ歩いたビルの地下金庫室には、褐色の宝の山がある。名建築の誉れ高い芝川ビルに先ごろ開店した[Mole Hosoi Coffee]。Moleとはモグラのことである。

選び抜いたコーヒーを楽しんでもらうのにふさわしい“大人の空間”を探していた店主の細井立矢さんが「この重厚な存在感にやられた」という入口の鉄扉は16cmもの厚さがあり、金庫製造会社の銘板が鈍く光る。内側にはさらに格子戸。この部屋自体が、嚴重に閉ざされた金庫そのものだったことを物語る。

そんな店の宝であるコーヒー豆は、細井さんが探し当てた北海道と愛知の焙煎師による逸品。なかでもブレンドは「誰が飲んでも美味しい、また飲みたいと思える味を」と、焙煎師と何度もやり取りして作り上げた自信作。コロンビアをベースに「さらにコクを、さらに香りを」と追求した、深く豊かな味わいだ。

コーヒーのお供には、細井さんが勤めていた人気パン&カフェ [ブランジュリ タケウチ] 特製のタルトやクロックムッシュ、そしてBGMのモダンジャズ。

まんまと金塊を手にした小説の男たちがカウンターに並び、至福の一杯をすすっている。そんな情景を頭に描いてみる。



手前は中深煎りのホソイブレンド500円、右はハムとチーズ、ベシャメルソースを使ったクロックムッシュ400円。タルトは120円。

モール Mole Hosoi Coffee

最近、高感度な店のオープンが相次ぐ芝川ビルの地下1階に昨年10月開店。ブレンドのほか、マンデリン、ハワイコナなどの厳選ストレートも。改装前の金庫室の様子は、芝川ビルの公式サイトで見られる。☎06-6232-3616 10:00AM~8:00PM 月・祝休



レトロな階段を降りていくと、モダンジャズが漏れ聞こえ、扉を開け放った金庫室が。もちろん窓はないが、脇には非常用の小さな扉が残っている。



有名セレクトショップに勤めたこともある細井さん。「日本中の美味しいコーヒーをセレクトして紹介したい」と静かな情熱を語る。

ナカノシマニア

取材文/松本 創(本誌)

中

之島が誇る音楽の殿堂、フェスティバルホールが建て替えのため、12月末で50余年の歴史にいったん幕を下ろした。1万を越す公演が行われ、延べ4千万人が来場した名ホール。島民としては、その歩みをあらためてひも解き、記憶に刻んでおきたい。

「音が天から降り注ぐ」と形容される残響の素晴らしさ、舞台と客席の一体感、内装の格調の高さ……。

数々の賞賛が示すように、もとは欧州の水準に匹敵する本格的なクラシックホールとして設計された。ストラヴィンスキーやカラヤンもここで振ったし、バ

イロイトやザルツブルグといった世界最高峰の音楽祭もやって来た。

だ

が、それだけではない。支配人の西部宏志さんが語る。

「70年代以降はあらゆる音楽や公演に胃口を開き、しかも出演者は各ジャンルのトップ・アーティストばかり。だからこそ、世代や音楽のスタイルを越えて、多くの方に愛され、目標とされる場所になったと思うんです」

なるほど、たしかに筆者が耳にした

島の名ホールの歩みは世界の音楽の歴史だった。

エピソードもジャンルを問わない。

93歳まで指揮棒を振った朝比奈隆が「大阪フィルと私の歴史はこのホールなくして語れない」と言ったとか、ロック史に残るデュー・パープルの名盤『ライブ・イン・ジャパン』の大半はジャケット写真の日本武道館ではなく、

ここで録られたとか、山下達郎が「日本一のコンサートホール」と激賞し、建て替える惜しんだとか……。

ちなみに、西部さんが最も印象に残



1958年4月開館。開館当初に始まり、昨年50回を数えた大阪国際フェスティバルの会場となってきたほか、夏の高校野球の抽選会場としても知られた。昨年12月30日、大フィルによる「第九の夕べ」で一時間閉館。



【フェスティバルホールで生まれたライブ盤(上から)】

- 『ブルックナー交響曲第7番』大阪フィルハーモニー交響楽団/朝比奈隆と大フィル、長年連れ添った両者の最後の定期演奏会の記録。2001年録音。
- 『TWINS 1&11~ライブ・イン・ジャパン82』ジャコ・パストリアス/天折した革命的ベーシストが、自らのビッグバンドを率いて登場したジャズフェスの実況。
- 『ライブ・イン・ジャパン』デュー・パープル/黄金期の72年来日公演。誰もが知る「スモーク・オン・ザ・ウォーター」も大阪で録音。

DEEP PURPLE LIVE IN JAPAN



島の東端に「Kiki京橋」オープン!

昨年11月、京阪京橋駅片町口にオープンした「Kiki京橋」。よしもと新喜劇の新しいハコ「京橋花月」をはじめ、大阪らしい「食」をクローズアップしたフロア構成。気になっていた島民の皆さんも多いのではなからうか。

それにしてもものすごいバラエティ感である。最上階の京橋花月は「笑い」のスポットであるが、その下階には居酒屋やパールの並ぶレストラン街、はたまたT S U T A Y Aがあるかと思えば「ブックオフ」にドラッグストアの「コ

クミン」も。そして1階にはラーメンやお好み焼きなど、気軽に入れる店が揃っている。

もちろんここだけでも楽しいのだが、せっかくなら京橋をいろいろ回ってみたい人にはこんな冊子がオススメ。「京阪京橋グルメガイ



「Kiki 京橋」「京阪モール」「改札内」「Kぶらっと」「ホテル京阪京橋」「いこいこ京橋東」に分けて紹介。各施設ほかで配布中。

ド」には、「Kiki京橋」のほか、京阪モールなど周辺施設に入るお店や、京橋駅から東へ延びる商店街「いこいこ京橋東」のガイドもたっぷり。『月刊島民』に挟んで持ち歩いてもらってもよろしいかと。(大迫力・本誌)

わたしと『月刊島民』



初めは知人に薦められて読み始めたんですけど、歴史やら、街のことをよく調べてはる。これやったらうちのお客さんも喜んで読むんじゃないですか。最高齢の方ですと94歳で昭和4年に創業した父の代から来てくれる人も多いですから。「島民」を読んで話に花が咲くこともありませう。私は食べることが大好きだから、お店の記事はじっくり読みます。もちろん創刊号からコレクションしてます。

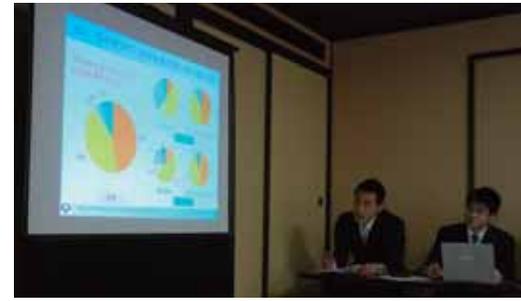


町内会「最前線」いざ潜入!

昨年12月のある土曜日、島民編集部は中之島3丁目にあるマンション「グランスイート中之島」の「寄り合い」に参加していた。マンションの集まりと言えば掃除当番を決めたり、改修について話し合ったりが定番だが、こちらはひと味違う。マンションの理事長さんの計らいで、大阪大学の学生たちが中之島についてアンケート調査をした結果を発表するところだ。



学生たちの結果報告に真剣に耳を傾け、意見を語る住民のみなさん。



パネル展示を見せたあと、様々な質問にどれくらいそう思うかを答えさせるもの。それを元に、利便性や清潔さ、飲食スポットなどに関して、中之島に住む人・働きに来る人・外部の人の間でどのような意識が変わるかを調査した。結果を要約すると、どの項目においても住民の方が好意的で愛着があることが判明。当たり前と言えば当たり前だが、働きに来るだけのワーカーや外部の人には、「単なるオフィス街」「公共施設が多い場所」としか映っていないことに、記者も少しショックを受けたのであった。

質疑応答の時間になると、議論はどんどんヒートアップ。しかし、不満を言い募るのではなく「役所に任せ、受け身ではない」「企業と住民の両方が参加できるイベントがあればぜひ参加したい」など、積極的な意見が出たのはびっくり。高層マンションに住む方々も、しっかり「地元意識」を持たれていることに、少し安心した「町内会見学」であった。

(大迫力・本誌)

次号予告 書を持って島へ出よう!

純文学、ミステリー、エッセイ、写真集：ジャンルは違えど中之島を舞台とする本は数多い。次号ではそんな「中之島本」を一挙紹介。また、中之島ゆかりで、現在大人気のあの作家や、知の殿堂・府立中之島図書館の徹底紹介も。活字好きの島民は必見です!

●『月刊島民』vol.7は2009年2月1日発行です!

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄
(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫 力(編集集団140B)
〒530-6591
大阪市北区中之島3-6-32 ダイヤビル140B
Tel.06-6445-2105 Fax.06-6445-2106
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

配布にご協力いただける方を募集しております!

(島外の方でも大歓迎!)

京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／アリススタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋／ブックファースト梅田店／旭屋書店 本店／旭屋書店 梅田地下街店／旭屋書店 堂島地下街店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／リプロ 梅田阪神店／ブックファースト 淀屋橋店／文教堂書店 淀屋橋店／福家書店 淀屋橋店／天牛書店 大江橋店／紀伊國屋書店 本町店／ジュンク堂書店 天満橋店／アバンティBC OMMビル店／紀伊國屋書店 京橋店／大阪市中央公会堂／府立中之島図書館／専門学校中の島美術学院／朝日カルチャーセンター／大阪大学中之島センター／大阪倶楽部／大阪国際会議場／市立住まい情報センター／大阪商工会議所／大阪企業家ミュージアム／大阪市立中央図書館／宗是そば／喫茶 大阪／ネイルサロンスワンナ／ABC朝日放送／MANGUEIRA／TOSABORI SANDWICH BAR／Girond's JR／じろう亭／ミニジロー／BAR THE TIME 天神／N4タワー マンションパビリオン／ホテルNCB／ザ・メロディ／なんば書店カルチャーコーナー その他、取材協力先

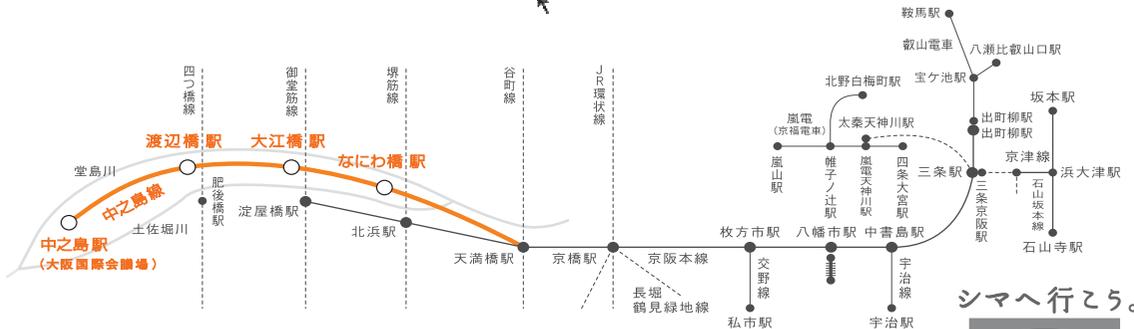


めぐりにいきましょう、
 大阪のええとこ。

大江橋
 森小路けい子 音大生

京阪のる人、おけいはん。

おけいはん www.okeihan.net



シマへ行こう。



京阪電車お客さまセンター ☎06-6945-4560 ※おかけ間違えないようにお願いします。
 [平日]9時~19時 [土休日]9時~17時 ※12月30日~翌年1月3日は休業